

●●●●● 「特別の教科 道徳」へ ●●●●●

教育庁指導部 主任指導主事 山村 智治

周知のように平成30年度からは小学校で、平成31年度からは中学校で、「特別の教科 道徳」が全面実施されます。特に小学校におきましてはその準備が進んでいることと思われます。

既に完了している学校も多いでしょうが、この期間に進めるべき研究や準備等について述べます。

① 学習指導要領と解説の読み込み

一人で読むより複数名で、指導や場面等の具体的状況を想起しつつ輪読などをしてはいかがでしょうか。今更とは思わずに皆で読んでいけば、その度に新たな発見があると思います。

② 指導体制作り

道徳教育の方針及び道徳教育推進教師の役割を明確にします。さらに、一人一人が具体的役割を担った協力的な教員組織を構築します。

③ 全体計画、年間指導計画作り

道徳教育実施状況調査によりますと、道徳の全体計画及び年間指導計画ともに、全ての小・中学校等で作成されています。では、内容はいかがでしょうか。各校の特色が表現されていますか。見やすく使いやすいものとなっていますか。今年度、小学校では、教科書が選ばれます。重点目標に即して、都や区市町村等の教材を、柔軟に指導計画に取り込んでいるのでしょうか。また、総則には道徳教育に関する配慮事項として、全体計画や道徳教育に関する諸活動の情報の、積極的な公表について記述されています。保護者や地域の方が見て、理解しやすく協力を得られやすいものとなっていますか。

④ 授業改善と評価

最後に、何をおいても授業改善です。学習指導要領等の理解を踏まえつつ、明るく伸びやかに教員同士が話し合える研究風土を作りましょう。

掲載内容

- 「環境教育掲示用教材」について
- 「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて
- 平成29年度 全国学力・学習状況調査「解説資料」の活用について
- 「使える英語力」の育成を目指します！

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存じですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にさせていただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

「学び応援ページ」を御活用ください！

**東京ベーシック・ドリルも
掲載しています！**

東京都教育委員会ホームページ・トップページ
の下の方に、このリンク用バナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jpへメールを御送信ください。

「環境教育掲示用教材」について

東京都教育委員会では、小・中学校等における環境教育の充実に向けて、様々な取組を実施しています。ここでは、「環境教育掲示用教材」について紹介します。

環境教育掲示用教材とは

環境教育掲示用教材は、児童・生徒に地球環境保全に関する必要な知識を与えるとともに、3Rをはじめとする地球環境に配慮した行動の大切さを理解させ、その実践を促すことを目的として作成した教材です。

環境教育掲示用教材の特徴

特徴 1

地球環境保全に関する課題を各回のテーマに設定し、児童・生徒が地球環境保全に高い関心をもち、環境に配慮した行動を促す内容を掲載します。

特徴 2

発達段階に応じた内容となるよう、小学校低学年版、小学校中学年版、小学校高学年版、中学校・高等学校版の4種類を作成します。

特徴 3

都内公立学校の全ての学級に年4回配布し、教室等に掲示することを通して、環境教育への取組を支援します。

特徴 4

学校の授業等で活用できるよう、短時間の活用例等を紹介した解説書と児童・生徒用のワークシートを添付します。

環境教育掲示用教材



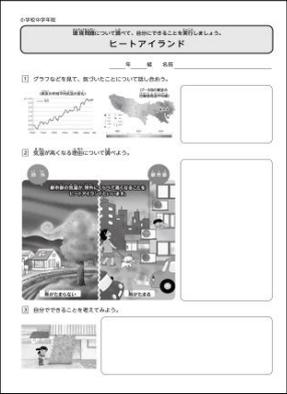
環境教育掲示用教材は、グラフやイラストを基に、児童・生徒の実践を促す内容となっています。

解説書



解説書とワークシートを活用し、児童・生徒が環境問題について考えたり、話し合ったりすることを通して、環境に配慮した行動を促します。

ワークシート



6月下旬に、環境教育掲示用教材（第1回）を各学校にお送りします。第1回のテーマは、ヒートアイランド現象についてです。ぜひ御活用ください。

「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて

東京都教育委員会では、本年度も、東京都の子供たちの豊かな心の育成を図るため、①学習指導要領と解説の理解、②指導体制作り、③全体計画、全体計画の別葉、年間指導計画作り、④授業改善と評価を柱に、道徳教育に関する様々な事業を展開します。今回のスクラムでは、都内の公立小・中学校等に向けた東京都教育委員会の主な施策を御紹介します。



1 「特別の教科 道徳」授業力向上セミナーの開催

「特別の教科 道徳」の**指導内容や指導方法の工夫**について、先生方に更に理解を深めていただくために、「『特別の教科 道徳』移行措置対応 東京都道徳教育教材集」の作成に携わった東京都道徳教育推進委員の先生方による授業を公開するとともに、授業実践を基に協議を行う「『特別の教科 道徳』授業力向上セミナー」（9月～12月）を開催します。**セミナーは、先生方の疑問や悩みを解決し、授業力の向上につながる内容になっています。**ぜひ、御参加ください。詳しい日程は、後日、区市町村教育委員会を通じてお知らせします。



2 東京都道徳教育推進拠点校の取組（区市町村立小・中学校 111校）

「特別の教科 道徳」の実施に向けて、指導内容の先行実施を行うなど道徳教育に**先進的**に取り組んで**研究開発**等を行い、各区市町村における道徳教育推進の中核的な役割を担う学校として東京都道徳教育推進拠点校を設置しています。

平成28年度と平成29年度の2年間にわたって研究を行い、その**成果を各地区内の学校へ広めていきます。**

6月7日に開催された「平成29年度東京都道徳教育推進拠点校連絡協議会」では、参考となる拠点校の取組事例の発表や、**各校の研究内容や成果、「評価」の考え方**等についての協議を通じて、今後の研究の在り方を明確にしました。



3 東京都「特別の教科 道徳」カンファレンスの開催（7月24日）

昨年度まで実施していた「東京都道徳教育推進教師養成講座」の内容を発展させ、教師個人の授業力の向上にとどまらず、各学校・地域において**組織的な道徳教育推進体制、指導体制の確立をけん引し、リーダーシップを発揮できる教員の育成**を目的として開催します。

各区市町村教育委員会から推薦をいただいた先生及び東京都道徳教育推進拠点校で道徳教育のリーダーとしての役割が期待される先生を対象として開催します。

4 道徳授業地区公開講座の開催（意見交換会の活性化の推進）

東京都教育委員会は、**学校、家庭及び地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育む**とともに、小・中学校等における道徳教育の充実を図ることを目的として、区市町村教育委員会と連携し、道徳授業地区公開講座を実施しています。今年度も都内全ての公立小・中学校等で、**「道徳の時間」の授業を公開**するとともに、子供たちの豊かな心を育むために学校、家庭及び地域社会でできることについて**意見交換**を行うことで、道徳教育を推進しています。**特に今年度は、意見交換会の充実、活性化に向けた支援**を行っていきます。

平成29年度 全国学力・学習状況調査「解説資料」の活用について

4月18日に実施された全国学力・学習状況調査の「解説資料」が、各学校に配布されました。調査を学習指導の改善・充実に生かすための本資料の活用事例を、調査問題から紹介します。



■ 「解説資料」の活用事例

- ・調査問題を対象学年の教師だけでなく、他の教師と一緒に解いてみる。そして、解説資料を参考としながら、どのような力が必要なのか考える。
- ・調査実施後、児童・生徒の解答を本校で採点する。その際、解説資料を参考としながら、児童・生徒の誤答傾向や不十分な解答を把握し、弱点・つまづきを捉える。
- ・解説資料の「学習指導に当たって」を参考として、指導計画の改善・充実に図る。
- ・調査問題や解説資料を参考として、授業で扱う教材づくりや学習の成果を評価するための問題づくりの参考とする。
- ・校内での授業研究において、調査問題に関連した課題を取り上げる際、解説資料を参考としながら、全国学力・学習状況調査との関係を学習指導案に明記する。

★小学校・算数 「A 主として知識に関する問題」より

(2) リボンを0.4 m買います。このときの代金を□円として、リボンの長さ
と代金の関係を下の図に表します。

「1 mあたりの値段の60」、「買う長さの0.4」、「0.4 m分の代金の□」
のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。

ア から オ までの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その
記号を書きましょう。

【出題の趣旨】

計算の能力を身に付けているかどうかをみる。

1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができるかどうかをみる。

【学習指導に当たって】

問題場면을的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことができるようにします。

指導に当たっては、問題場面から数量の対応関係や大小関係を数直線上に表したり、数直線上の基準量に当たる1に対応する数量を問題場面から確かめたりする活動が考えられます。

また、割合の内容は、多くの単元、内容が関連しています。基準量、比較量、割合の関係を確実に理解するためには、どのような内容が関連しているのかを明確にすることが大切です。



【参考】平成25年度「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」（国立教育政策研究所）

各学年において、基準量、比較量、割合の関係を理解を深める素地となる授業の例

<p>第1学年「ながさくらべ」 例「消しゴム四つ分の長さが、鉛筆の長さになります。」 →基準となる長さを基に、長さを測定する。</p>	<p>第2学年「1000までの数」 例「200は100が二つ分の数です。また、10が20個分の数です。」 →10や100などを単位として数の大きさを捉える。</p>	<p>第2学年「かけ算」 例「3cmの二つ分のことを3cmの2倍といい、3×2と表します。」 →二つの数量の関係を倍を使って捉える。</p>	<p>第4学年「小数のわり算」 例「茶色のテープの長さ30cmは、青色のテープの長さ20cmの1.5倍です。」 →基準量と比較量から倍を求める。</p>	<p>第5学年「小数のかけ算」 例「1mの値段が80円のリボンがあるとき、このリボンの0.8mの代金は64円です。」 →基準量と割合から比較量を求める。</p>	<p>第5学年「小数のわり算」 例「ある犬の生後10日の体重が630gで、生まれたときの体重の1.8倍にあたるとき、生まれたときの犬の体重は350gです。」 →比較量と割合から基準量を求める。</p>
--	---	---	---	---	---

★中学校・国語 「A 主として知識に関する問題」より

③ 次は、高島さんが自分の体験をもとにして書いた「物語の下書き」と、それを読んだ友達からの「助言」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【物語の下書き】

明日に迫った合唱コンクールに向けて、健一たちは練習をがんばってきた。
 そしていよいよ本番に向けての最後の練習。張りつめた空気の中、指揮者の動きとともに歌声とピアノの音が静かに止まる。
 一瞬の静寂のあと、指揮をしていたカオルが満面の笑みで言った。
 「今までで一番よかったよ。」
 皆の顔にも笑みが浮かんだ。
 「この調子なら明日もよい歌が歌えそうだ。」
 と、健一は思わずつぶやいた。

【助言】

① 皆ががんばって練習している様子が伝わるように、会話を増やすとよい。
 ② この出来事が学校のどこで起こっているのかが分かるように、場所を示すとよい。
 ③ 緊張した雰囲気がやわらいだことが分かるように、情景の描写を加えるとよい。
 ④ 練習の大変さが伝わるように、過去の練習の場面を入れるとよい。

一 高島さんは、「物語の下書き」を読み返し、――線部「練習をがんばってきた」を、それまでががんばってきた様子が読み手により伝わるように書き直すことにしました。次の□に当てはまる言葉を、「がんばる」という単語を使わずに、十五字以内で書きなさい。

健一たちは□。

二 高島さんは、「助言」を参考にして、「物語の下書き」の□のところに次の一文を書き加えることにしました。高島さんが参考にした「助言」はどれですか。「助言」の①から④までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

窓から吹き込んでくるさわやかな風が、「あじ一日」と書いたカレンダーを揺らす。

【出題の趣旨】

書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くことができるかどうかをみる。
 書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直すことができるかどうかをみる。

【学習指導に当たって】

伝えたい事柄が読み手に効果的に伝わる表現になっているかどうかを確かめます。

推敲する際には、別の言葉に書き換えたり、新しい言葉を付け加えたりすることで、伝わり方がどのように異なるのかを確かめるなど、具体的な表現を基にして考えることが重要です。

観点を明確にして交流し、意見や助言を基にして自分の表現を見直します。

書いた文章を互いに読みあう際には、文章の構成や材料の活用の仕方など、観点を明確にして交流し、意見を述べたり助言をしたりすることが大切です。また、自分の書いた文章に対しての意見や助言によって気付かされたり、改めて認識したりしたことを明確にし、自分の表現に役立てようとすることも重要です。



関連する問題や報告書の内容を確認し、授業改善に活用していくことも大切です。

【参考】

平成26年度 全国学力・学習状況調査 小学校・国語「A 主として知識に関する問題」③
 解説資料 (P.19~P.21) https://www.nier.go.jp/14chousa/pdf/14kaisetsu_shou_kokugo.pdf

■ 「東京ベーシック・ドリル」で立ち戻る学習を！

東京ベーシック・ドリルを使うと、全国学力・学習状況調査で出題された問題に関連する内容の復習ができます。各学校に配布済のドリルには、中学校第1学年までの問題があります。また、東京都教育委員会のホームページにも掲載してあります。ぜひ御活用ください。

(http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/manabiouen/basic_drill.html)

<p>三 次のアからエの文では、最も適切な言葉を1から4までの中から一つ選びなさい。</p> <p>ア (1) そで 2 えり 3 むね</p> <p>イ よい結果を早く出したときは、(1)れるように、かえって慎重に議論を進め(1)先生もこの書店をよく(1)利用す</p>	<p>② 美化委員会って何時に始まるの？</p> <p>① 明日ね、ないって、国語の授業。</p>
<p>④ 次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。</p> <p>(1) 健太さんは$\angle XOY$の二等分線を、次の方法で作図しました。</p> <p>健太さんの作図の方法</p> <p>① 点Oを中心として、適当な半径の円をかき、辺OX、OYとの交点をそれぞれ点A、Bとする。</p> <p>② ①でかいた円の半径より長い半径で、点Aを中心として円をかき、</p> <p>③ 点Bを中心として、②でかいた円の半径と等しい半径の円をかき、②の円との交点の1つを点Pとする。</p> <p>④ 直線OPをひく。</p>	<p>③ 下の図で、$\angle AOB$の二等分線を作図しなさい。</p>

「使える英語力」の育成を目指します！

東京都教育委員会では、中学校英語の指導方法や評価方法の改善を図り、生徒の「英語でやり取りする力」など、表現力（パフォーマンス）を高めるために、パフォーマンステストの活用を推進します。

英語教育における課題

<p>新学習指導要領「中学校外国語科」への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」の5領域において資質・能力を育成 ○ 対話的な言語活動を重視 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「話すこと（やり取り）」の領域を設定 ・ 語彙、文法と言語活動との効果的な関連付け ・ 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能の育成 	<p>児童・生徒の学力向上を図るための調査(H28) 英語教育改善のための英語力調査(H28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「話すこと」「書くこと」を含む「英語による表現力」に課題 ○ スピーキングテストにおける課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使える文法や表現が限定的である。 ・ 発話量が少ない、又は断片的である。 ・ 即興的な質問に適切に回答できる生徒が全体の5割未満である。 ・ 論理的な構成、要素を関連付けた発話ができる生徒は4割未満である。
---	---

「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」を実施します

対象者：都内公立中学校英語科教員
 日程：7月31日（月）から8月2日（水）までの3日間（全6回）から1回（半日）
 目的：生徒のパフォーマンスを適切に測る指導方法や評価方法の改善を図る。